

2026年活動スローガン 「がんばろう 笑顔に出会うボランティア」

報 告

2025年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●活動・イベント

- ・「国際白杖DAY」にYURIKOエンゼルスクールで視覚障がい者への理解と関心を深めるための講座を行いました。(10/15)
- ・YURIKOエンゼルスクールで生徒達の「メンタルヘルスケア講座」を行いました。(10/27)
- ・エンゼルホーム内の診療所で佐賀県のNPO法人「POSA」の医師らによってアイキャンが行われ127名の白内障患者の手術が行われました。(11/1～4)
- ・川村百合子前代表の命日に故人を偲ぶ会を行いました。(11/23)
- ・「バングラデシュ支援40周年記念式典」を行いました。(12/6)

●寄付

- ・会員有志の方よりエンゼルホームの図書室とYURIKOエンゼルスクール、イドガー中学校に図書合計555冊
- ・会員有志の方よりユニオン中学校に図書180冊
- ・安積濾紙株式会社様よりYURIKOエンゼルスクールにパソコン10台とプリンター5台
- ・手作りボランティアサークル「ドンノバ」様よりエンゼルホームの食堂修繕費

〈国内活動〉

- あおぞら食堂「エンゼル」(こども食堂)への寄付
- ・尼崎武庫川渡船様より食材(魚)の寄付
- ・TOYO TIRE株式会社様より運営費(3万円)寄付
- 12月に大阪のJR天王寺駅前街頭基金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。
- ピザラ塚口店様より食材(ピザ)の寄付

イベント情報

4/8 春のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間：10:00～14:00

お知らせ

- 会員総会 3月6日(金) 13:30～
会員の方には後日案内をお送りしますのでご出席くださいますようお願いいたします。
- 当協会への寄付は税制優遇(寄付金控除)の対象となります。昨年度仮の受領書を発行しておりました皆様へ、1月中旬より寄付金受領証明書をお送りします。もし確定申告の都合上お急ぎの方がおられましたら、国際エンゼル協会事務局までお問い合わせ下さい。

編集後記

我が家の新年の食卓にはお雑煮が欠かせません。私の故郷香川では白味噌仕立ての餛飩雑煮です。他の地方の方には「甘々で気持ち悪いのでは?」と云われますが、食べてみると案外美味しいものです。この餛飩雑煮の起源は江戸時代からだそうです。当時香川の名産であった貴重な砂糖を、正月くらいはふんだんに味わいたいという願いから生まれたと聞いています。地域や文化で様々な特徴のあるお雑煮、これからもその伝統を子々孫々とつないで欲しいと願っています。

2026年 行事予定

1月現在

2月	21日(土)	チャリティバザー	フレンテ西宮	西宮市
4月	8日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	25日(土)	チャリティバザー	名谷駅前広場	神戸市
6月	7日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	15日(月)～22日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	
9月	4日(金)～11日(金)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	
10月	21日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ

ANGEL NEW

通巻214号
2026.01

謹賀新年



エンゼルホームのこども達

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は私達の活動に温かなご支援をお寄せくださり心より感謝申し上げます。本協会の活動は、多くのボランティアの皆様を支えられて成り立っています。皆様毎日のようにバザーの品物の仕分けや値付け、バザー会場の準備などをしてくださっています。雨の日も風の日も休むことなく、気付けば43年。皆様の献身的に活動される姿に頭の下がる思いでいっぱいです。こうして皆様が費やしてくださる時間、労力、そして変わらぬお気持ちは大きな力となって海を越えて、バングラデシュのこども達や女性達に届けられています。現地から毎月送られてくるエンゼルホームのこども達の様子、識字教室の女性達や奨学生達からの感謝の手紙は、皆様の献身的な思いが届いたことの証しです。

今、世界では紛争や災害が相次いでいます。国際的な不安定さは弱い立場にある人々の暮らしを一層困難にしています。こうした時代だからこそ、心を一つにし、支えあうことが私達には求められています。今年も一年、皆様と力を合わせて世界のこども達の為に頑張っていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

バングラデシュ支援40周年お祝い会 を開催しました

昨年の9月20日(土)に国際エンゼル協会のバングラデシュ支援40周年お祝い会を開催しました。1985年から40年、その間関わってくださった多くの方々にお声掛けさせていただき、ボランティアセンターには130名を超える会員の皆様にお越しいただきました。また、支援当初から現地で様々なプロジェクトの立ち上げに関わってくれている現地責任者のアジズル・バリ氏もバングラデシュから駆けつけてくれました。当日はこの40年間のスライドや思い出話、懐かしの模擬店などとともに、皆で楽しいひと時を過ごしました。

過去の写真をまとめたスライドショーを上映しました。皆さん自分がバングラデシュに行った時のことを思い出し、エンゼルホームのこども達と一緒に遊んだ思い出など、懐かしい記憶を語り合っていました。

支援活動の中心を担うチャリティバザー、以前はバザー当日にいろいろな模擬店も出店していましたが、コロナ禍以降模擬店は中止となっています。この日は懐かしい味を再現した模擬店を行いました。人気だったネギ焼きやタコ焼きに皆さんとても喜ばれていました。

会員の皆さんに、初めてバングラデシュを訪問した時の思い出を披露してもらいました。シャワーの最中に停電になり、真っ暗な中で水しか出ないシャワーに打たれながら立ちつくしていたことなど、色々あったハプニングの数々も良き思い出となり、笑い話となっていました。

バリ氏への質問コーナーでは現地の様子や支援の成果など、様々な質問がありました。特に40年の支援の成果についての質問では、社会で活躍している卒業生達の話がありました。皆さんこども達が活躍している話を聞いて、自分達が行ってきた活動の成果を実感されていました。



最後は笑いあり学びありのバングラデシュ支援40年クイズ大会で大盛り上がりとなりました。バングラデシュの知識や過去の記憶を頼りに答える問題も多く、チームのみんなで話しあって答えを導き出していました。



当日参加いただいた方だけでなく、お越しになることが難しかった方からもたくさんのご寄付をいただきました。皆様の温かいご支援に深く感謝申し上げます。現地ではますます経済格差が広がっています。それでも負けずに夢に向かって頑張っているバングラデシュのこども達のために、これからもどうぞよろしくお願いします。

日本滞在で学んだこと

YURIKOエンゼルスクール

校長 アリフザマン マニック



日本滞在中は大変お世話になりました。皆様のおかげで、本当にたくさんの学びと出会うことができました。私は生まれてから43年間、バングラデシュ以外の国を訪れたことがありませんでした。自国のことしか知らなかった自分にとって、遠い異国に行ける日が来るとは思っていませんでした。

日本に降り立った時「こんなにも秩序が守られている国があるのか」と驚きを隠せませんでした。すべての事柄が時間通り、そして規則正しく行われます。電車は時間通りにやってきて、座席は争うことなく困っている人に優先されています。車はきちんと決められた線の中を走り、例えどんなに急いでも皆信号を守っています。クラクションの音が鳴り響くこともなく、穏やかな街並みが広がっています。皆様にとって当たり前のことかと思いますが、私にとってはとても新鮮で、とても素晴らしく、いつかバングラデシュもこのような光景があふれる国にしていきたいと強く感じました。また、日本のボランティアの皆様との関りは私の仕事に対する向き合い方を変えてくれました。皆様がどのようにしてバングラデシュの学生達のための支援資金を作ってくださっていたのか。その活動に少しでも一緒させていただくことができ、私達がいただいているお金がどれだけ貴重なものかを実感することができました。暑い中、一軒一軒ていねいに配られているチャリティバザーのチラシ、地道な作業に込められる真心こそが大きなことを成すための原動力なのだと知ることができました。

そして滞在中に見学させていただいた学校では「教育に携わる者としての姿勢や考え方」を学ばせていただきました。日本の学校にはバングラデシュにはない最新の資器材が揃っていました。大きなモニターやタブレット、きれいな校舎や運動場。物だけではありません。どの学校の先生も授業に対して誠実で、生徒に対して丁寧で、教育者としての深い使命感と責任感にあふれた方ばかりでした。そしてそのような先生に教わった生徒達は知識だけでなく、誠実な心と他者を尊重する姿勢を身に付けていました。

私は自国に戻り、まず先生達へ授業に対する姿勢を改めて考えるよう指導しました。そして生徒達が知識だけでなく、豊かな人間性を身に付けることができるにはどのようにしたら良いかを共に考えていくようにしました。支援してくださっている皆様への感謝の気持ちを学ぶため、皆様と同じように先生達で手分けして学校のチラシを一軒一軒回って配りました。大きな変革はまだできていません、しかし以前と比べて先生達全員が小さくて地道なことにも真心を込めて取り組むようになりました。私達教育者が率先して誠実に、時間を大切に、努力を惜しまず、こども達を導いていくことを誓いました。いつの日かバングラデシュにも日本と同じ光景が広がることを夢見て、未来を担うこども達への教育に励んでいきます。最後になりましたが、滞在中に出会いましたすべての方々へ深い感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。